

PM シンポジウム 2021

企業を変える、社会を変える、生き方を変える
～DX時代を牽引するプロジェクトマネジメント～

9 / 2 Day 1 THU - 3 Day 2 FRI

タワーホール船堀 (江戸川区総合区民ホール)

主催：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)

後援：経済産業省(METI) 予定 / 一般財団法人エンジニアリング協会(ENAA) 予定

独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO) 予定 / 独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 予定

ハイブリッド
開催

会場&オンライン

会場参加中止の場合あり
詳細はWEBページを
ご確認ください

PMシンポジウム2021

PMシンポジウム2021大会テーマ

企業を変える、社会を変える、生き方を変える ～DX時代を牽引するプロジェクトマネジメント～

今我々に突き付けられているのは、パンデミック、地球温暖化による異常気象や海面上昇、格差拡大による貧困層の増大、少子高齢化による社会保障の低下など、今までの延長では対応できない命題ばかりです。これらの課題解決には「持続可能な開発目標」達成に向けた、社会と企業の取組みが欠かせません。

2020年はCOVID19が世界的に感染拡大し、組織（社会）的経験と準備が足りず大きな混乱が発生しました。そこから得られる教訓は「今までのやり方や考え方を変えなければ生きて行けない」ではないでしょうか。従って、今求められるのは「企業を変え、社会を変え、生き方を変えて」対応することです。

一方、IT技術の進歩により「DX（デジタル変革）」が多くの企業で取り組まれています。それは単なるIT技術の応用（Digitization）ではなく、その本質はビジネスの持続的発展のための企業変革です。それにより、サプライチェーンなどの産業構造の変革や新ビジネスモデルが創出され、社会においては行政手続きの一元化、個人においては場所と時間に縛られない働き方など、今までの常識を超えた変化が起きています。

このようなDX時代では、プロジェクト・マネジャーに期待される役割が変化しています。DX時代は変化に適応する組織アジリティが求められており、プロジェクト・マネジャーは組織の変革を支援する責務があります。さらに、不確定で先が見えない予測不能な未来に備え、持続可能社会を実現するためにこそ「プログラム&プロジェクトマネジメント」が必要です。

今回のシンポジウムではDX時代を生き抜く鍵となる組織変革の取り組みや、社会課題の解決、人材育成などの事例紹介を通して、DXを効果的に計画し推進する知識を獲得する場を設けました。

各種ポイントの発行について

発行ポイントは次のとおりです。

CPU ■ Day1 : 12ポイント ■ Day2 : 12ポイント

PDU ■ Day1 : 6PDU ■ Day2 : 6PDU

PMP®資格認定試験用受講証明書を発行いたします

実践力ポイント ■ Day1 : 1.5ポイント ■ Day2 : 1.5ポイント

「PMI」「PMP」「PMBOK」は、Project Management Institute, Inc. (PMI) の登録商標です。
「BABOK」は、International Institute of Business Analysis (IIBA) の登録商標です。
「PMSP」「PRINCE2」「ITIL」は、AXELOS Limitedの登録商標です。
「IPMA」「ICB」「OCB」「IPMA Delta」は、International Project Management Association (IPMA) の登録商標です。
「PMAJ」「P2M」「PMR」「PMS」は、日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ) の登録商標です。

Live 基調講演

Day
1

9月2日(木)

PMシンポジウム2021

KN-1

10:00～11:00

変革の時代に求められるリーダーシップ

国立大学法人東北大学大学院 経済学研究科 教授／地域イノベーション研究センター長 藤本 雅彦 

今日の時代、我々は様々な社会や経済の変化に直面している。こうした時代を背景として、政治や経済の世界でもいたるところで変革が求められ、時代の変化にしたがって求められるリーダーシップとリーダー像も変化してきた。

そもそもリーダーシップとは、リーダーの資質にも依存しているが、個人によって生み出されるだけではなく、フォロワーによって醸成されるものでもある。すなわち、フォロワーがリーダーを希求し、リーダーシップを発揮させる基盤を創り出しているのである。

では、変革の時代にフォロワーが求めるリーダー像とは、どのような人物像なのだろうか。そして、組織変革によって組織パフォーマンスを向上させるリーダーシップとはどのようなものなのだろうか。

本講演では、これまでのリーダーシップに関する一般的な通説を批判し、変革の時代に求められる新たなリーダーシップのあり方とリーダーの要件を明らかにする。

【講師略歴】

1959年、北海道生まれ。1983年、東北大学教育学部卒業。1999年、東北大学大学院経済学研究科博士課程修了（博士（経済学））。株式会社リクルートおよびIT企業取締役などを経て、2004年、東北大学大学院経済学研究科助教授。2007年、同教授。著書に『若手社員を一人前に育てる』産業能率大学出版部、『人事管理の戦略的再構築』税務経理協会、『経営学の基本視座』（編著）まほろば書房などがある。



Live 基調講演

Day
2

9月3日(金)

PMシンポジウム2021

KN-2

10:00～11:00

開発担当企業からみた「富岳」の開発

富士通株式会社 理事／未来社会&テクノロジー本部長代理 新庄 直樹 

スーパーコンピュータ「富岳」は2012年よりフィージビリティスタディを実施し、2014年より理化学研究所が開発主体となって「フラッグシップ2020プロジェクト」において開発を開始、本年3月に完成して正式共用を開始した。この間、2020年にはスーパーコンピュータ向けベンチマークで世界一の四冠を二期連続して達成した。また、システムの開発と並行して、重点課題アプリケーションおよび萌芽的課題アプリケーションの開発が行われ、正式共用前に多くの成果を挙げている。さらに2020年4月からは新型コロナウイルス対策の研究開発に優先的に試用され、その成果は多くの方々に知られているところである。今後は、科学面での貢献のみならず、人々が安全・安心・快適に生活を営む未来社会「Society 5.0」の実現にも貢献して行く事が期待されている。

本講演では、スーパーコンピュータの概観、「富岳」の概要を説明し、開発担当企業としての視点で「富岳」の開発を振り返る。

【講師略歴】

1987年富士通株式会社入社。大型計算機開発部門に所属し、スーパーコンピュータのハードウェア開発に従事。2006年、「京」の概念設計に参画、2007年より「京」の開発に従事。「京」の完成後、2012年より「富岳」のフィージビリティスタディに参画。2014年次世代テクニカルコンピューティング開発本部長、「富岳」の開発に従事。2021年4月より現職。



C-P：公募講演(Call for Presentation) T：Technical L：Leadership S：Strategic

9/2THU Day 1	Live 9/2ライブ配信／9/13～9/30オンデマンド配信	
	9:45～10:00	開会・来賓挨拶
	10:00～11:00	基調講演 [KN-1]変革の時代に求められるリーダーシップ 東北大学 藤本 雅彦 L
	11:20～12:20	主催者講演 [SP-11]サステナブルリカバリーへの処方箋 PMAJ 加藤 亨 S
	13:20～14:20	特別講演 [SP-12]多様なネットワークがイノベティブで強靱な経済をつくる 早稲田大学 戸堂 康之 S
	14:40～15:40	特別講演 [SP-13]「失われた20年」から「輝かしい2030年代」へ向けて 野村総合研究所 北 俊一 S
9/2～30オンデマンド配信	9/2～30オンデマンド配信	
	プロジェクトマネジメント実践 [PM-11]住友生命のDXプロジェクトはなぜ成功したか ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ 榎巻 亮 L	
	プロジェクトマネジメント実践 [PM-12]ムアラバ地熱発電プロジェクト 富士電機 服部 康之 T	
	プロジェクトマネジメント実践 [PM-13]アジャイル開発の科学 トヨタシステムズ 河路 裕司 C-P T	
	プロジェクトマネジメント実践 [PM-14]現場から見てきたイノベーションを創出する5つの法則 PMAJ PMマイスター 竹林 一 S	
	プロジェクトマネジメント・スキル強化 [PS-11]DXに向けたモダナイゼーションを成功に導く新たな品質保証体系 富士通 藤森 正晴 T	

プロジェクトマネジメント・スキル強化	戦略及びビジネスマネジメント	社会課題解決	イノベーション
[PS-12]プロジェクトマネジメントの現場 デンソー 及部 敬雄 L	[BS-11]日揮流AWPの実装とEPC業務のDXに向けたデジタル化 日揮グローバル 小島 和之 T	[SS-11]“プロシエリング”という新しい働き方 サーキュレーション 信澤 みなみ S	[IN-12]ニューノーマル時代の旅を科学し、世界を変える挑戦 ANAホールディングス 大下 真央 L
プロジェクトマネジメント・スキル強化	戦略及びビジネスマネジメント	社会課題解決	イノベーション
[PS-13]PRINCE2概要紹介－組織論としてのPRINCE2の特徴と活用 PMAJ PM研究・研修部会 木下 雅治 T	[BS-12]会社の成功細胞を育成し、経営危機を脱出せよ 経営コンサルタント 川勝 良招 S	[SS-12]地域課題を自ら解決できる「人」と「場」の基盤づくり 塩尻市役所 山田 崇 S	[IN-13]ググらせない会社が創る非接触型スマートシティ アクアビッツパイラルズ 萩原 智啓 T
ヒューマンスキル	戦略及びビジネスマネジメント	社会課題解決	
[HS-11]プロジェクトマネージャーとキャリアカウンセラーの共通点 富士通 遠坂 岳雄 L	[BS-13]組織アジリティへの拡張の必然性 PMAJ 組織アジリティSIG 小原 由紀夫 S	[SS-13]経済産業省に新たな風と未来への種まきを 官民若手イノベーション論ELPIS 杉山 実優 L	
ヒューマンスキル	人材育成・働き方改革	社会課題解決	
[HS-12]隠された脳の潜在能力を【瞬読】で引き出す 瞬読協会 山中 恵美子 L	[HR-11]ニューノーマルでの働き方改革【Work Life Shift】とジョブ型人事制度の展開 富士通 森川 学 S	[SS-14]おきなわ海ブドウ物語 PMAJ 沖縄PM研究部会 屋比久 友秀 S	
ヒューマンスキル	人材育成・働き方改革	イノベーション	
[HS-13]自己成長のためのセルフコンパッション マインドフルリーダーシップインスティテュート 木蔵 ジャフェ 君子 L	[HR-12]課題解決型プロマネについて考えてみませんか？ 物語リラボ 吉野 均 C-P T	[IN-11]DADCで取り組むアーキテクチャ具体例 情報処理推進機構 南 正樹／細川 速美／高橋 久美子 T	

9/3FRI Day 2	Live 9/3ライブ配信／9/13～9/30オンデマンド配信	
	10:00～11:00	基調講演 [KN-2]開発担当企業からみた「富岳」の開発 富士通 新庄 直樹 T
	11:20～12:20	特別講演 [SP-21]SDGs、脱炭素が引き起こす価値の大転換 立教大学 河口 真理子 S
	13:20～14:20	特別講演 [SP-22]技術と社会を変革するシステムイノベーション システムイノベーションセンター 木村 英紀 S
	14:40～15:40	特別講演 [SP-23]アーキテクチャ設計力強化に向けた日本政府・IPAの取組について 情報処理推進機構 河野 孝史 S
	16:00～17:00	特別講演 [SP-24]学びのパラダイムシフト 曹洞宗僧侶 藤田 一照 L
9/3～30オンデマンド配信	9/3～30オンデマンド配信	
	プロジェクトマネジメント実践 [PM-21]エナジートランジション技術の社会実装に向けて 東洋エンジニアリング 富永 賢一 S	
	プロジェクトマネジメント実践 [PM-22]国際宇宙探査時代の国際協力とマネジメント 宇宙航空研究開発機構 永井 直樹 C-P S	
	プロジェクトマネジメント実践 [PM-23]PMRが語る 環境変化に対応するプログラムマネジメント PMAJ Advanced PMR Club 枝窪 肇／吉野 良成／坂井 剛太郎 T	
	プロジェクトマネジメント実践 [PM-24]DXにおけるプログラムマネジメントとは PMAJ PMマイスター 濱 久人 S	
	プロジェクトマネジメント・スキル強化 [PS-21]アジャイル開発による生き生きとしたマネジメント デロイトトーマツコンサルティング kyon_mmm L	

プロジェクトマネジメント・スキル強化	ヒューマンスキル	人材育成・働き方改革	イノベーション
[PS-22]品質重視のアジャイル開発とは イデソン 菅田 直美 T	[HS-23]セカンドキャリア×ローカル グロッシー 北村 貴 L	[HR-23]人材危機時代の外国人材の活用の実践 サンウェル ユガナンダン・スプラマニヤン L	[IN-21]スタートアップのためのマインドセット カピオン 曾我 弘 L
プロジェクトマネジメント・スキル強化	戦略及びビジネスマネジメント	社会課題解決	イノベーション
[PS-23]DX推進の鍵を握るアジャイルPMO TIS 張 嵐／利根 章 C-P T	[BS-21]あなたならどうする？DXの実現に向けた「最初の一步」 富士通 衛藤 智広 S	[SS-21]“SPERA水素®”を活用した国際水素供給網の構築 千代田化工建設 鍛冶 尚弘 S	[IN-22]5G時代のシステムインテグレーション FCNT 井上 栄 T
プロジェクトマネジメント・スキル強化	戦略及びビジネスマネジメント	社会課題解決	イノベーション
[PS-24]DX時代のプロジェクトマネジメント PMAJ PM研究・研修部会 大泉 洋一 T	[BS-22]DXの荒波を乗り越える！ ピーエム・アライメント 中谷 英雄 S	[SS-22]ソフトバンク SDGs戦略と推進 ソフトバンク 日下部 奈々 S	[IN-23]デザイン思考・変革のための人間中心の方法論 Ringfish 中澤 雄一郎 T
ヒューマンスキル	人材育成・働き方改革	社会課題解決	
[HS-21]機能体から共同体としての組織へ Pallet 羽山 暁子 L	[HR-21]デジタル時代のセキュリティ人材育成と当社の取り組み事例紹介 富士通エフサス 河原林 広 L	[SS-23]国境をこえた障がい者支援 Support for Woman's Happiness 石原 ゆり奈 S	
ヒューマンスキル	人材育成・働き方改革	社会課題解決	
[HS-22]ニューノーマル時代のリーダーシップ EQ/パートナーズ 安部 哲也 L	[HR-22]富士通におけるDX人材育成 富士通 半田 智子 L	[SS-24]「脱炭素」社会づくりが日本の明日を決める 環境文明研究所 加藤 三郎 S	

Day 1 Day 2 共通	Day1/Day2共通 9/2～9/30オンデマンド配信			
	[EX-1]デジタル化とベストプラクティス基盤知識 ピープルサート・インターナショナル まつばやしともふみ L	[EX-2]「コロナ禍に勝つDXに向けたモダナイゼーション！」 ソフトロード 新妻 秀樹 T	[EX-3]プロジェクトの変更に予算管理を考える TIS千代田システムズ 金子 健一 T	[EX-4]プロジェクトのフローを加速せよ アジャイルウェア 小路 慎浩 T
[EX-5]DXを実現するためのプロジェクトデザイン思考 グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン 池 大 T	[EX-6]プロジェクトとレジリエンスと笑いとユーモア プラネット 中嶋 秀隆 L	[EX-7]オラクル建設&エンジニアリングのプロジェクトマネジメントソリューションのご紹介 日本オラクル 藤井 克佳 T	[EX-8]パナソニック経営理念伝道師が語る「経営理念とマネジメント」 パナソニックソリューションテクノロジー 佐藤 昌夫 S	[EX-9]“一気通貫型プロジェクトマネジメント”の未来像ビジネスの考察 日立ドキュメントソリューションズ 河崎 宣史 T

主催者講演

SP-11

サステナブルリカバリーへの処方箋

11:20～12:20

DXを牽引するプログラムマネジメント

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会

理事長

加藤 亨

COVID-19は日本だけではなく、世界に大きな被害をもたらし、現時点(2021年5月)においても終息への道筋はまだ明確には見えていない。しかし、明けない夜はない。我々は、ニューノーマルに向けて、COVID-19がもたらした強制的な変化を、むしろ好機ととらえ、新たな、そして持続可能な社会を創造する道を探っていかなければならない。おそらくその道は、従来の延長線上にはない。大きく変わってしまった環境の中で、さらに日本としては、諸外国に比して大きく遅れ

を取ってしまったデジタルトランスフォーメーション(DX)を加速しつつ、持続可能な成長を遂げ、国際社会の中でプレゼンスを復活させていく道筋を確立しなければならない。そのサステナブルリカバリーへの処方箋となるのが、「プログラムマネジメント」であると私は考えている。本講演では、日本がサステナブルリカバリーを果たすための基本的な要件の分析と、新たなプログラムマネジメントの役割を解説し、今後の日本が取るべき処方箋について考察する。

【講師略歴】

1978年 千代田化工建設(株)入社、同社の様々な情報化プロジェクトを担当後、同社の情報子会社の執行役員、取締役本部長等を歴任。2016年 7月より千代田ユーテック株式会社 代表取締役社長に就任。2019年7月より日本プロジェクトマネジメント協会理事長に就任し現在に至る。PMAJ公認PMS、米国PMI公認PMP など。



特別講演

SP-12

多様なネットワークがイノベティブで強靱な経済をつくる

13:20～14:20

早稲田大学 政治経済学術院 教授

戸堂 康之

コロナ禍や米中デカップリングで、世界経済が混乱している。このような中で、ネットワークのパートナーを多様化し、「よそ者」ともつながることが、人や企業のパフォーマンスやショックに対する強靱性を上げることが、データを基にした様々なエビデンスに基づいて

論じる。その上で、特に今後の日本企業のサプライチェーンや、より知的な活動も含むバリューチェーンのあり方について、企業や政府に対して提言を行う。

【講師略歴】

東京大学教養学部教養学科卒業、学習塾経営を経て、スタンフォード大学経済学部博士課程修了(経済学Ph.D.)。東京大学新領域創成科学研究科教授・専攻長などを経て2014年4月より現職。研究分野は、国際経済学・開発経済学・日本経済論。著作に、「なぜ「よそ者」とのつながりが最強なのか」(プレジデント社)など。



特別講演

SP-13

「失われた20年」から「輝かしい2030年代」へ向けて

14:40～15:40

Beyond5Gが実現するデジタル・インクルージョン

株式会社野村総合研究所 パートナー

北 俊一

コロナ禍で露呈した我が国のデジタル化の遅れを取り戻すべく、社会・産業・生活の各局面におけるDXが加速しつつある。2000年代、2010年代の失われた20年から脱却し、わが国が輝かしい2030年代を迎えるため、我々は今、何をすべきなのかを論じる。目指すべき社会像はSociety5.0であり、誰一人取り残さずデジタル化の果実を享受できる社会である。その実現の鍵を握るのが、全世界で2030年までのローンチが予定されているBeyond5G(6G)である。B5Gは単なる5Gの次の移動

通信インフラではない。Society5.0を実現するための社会産業インフラである。B5Gにおいて我が国の競争力を復権させるため、企業は今、何をすべきなのかを論じる。また、企業のDXには、DX1.0から3.0までの3段階ある。個別業務のデジタル化であるDX1.0、デジタル技術を駆使して新たな価値・ビジネスを創造するDX2.0、そして、デジタル技術で社会課題を解決し、社会価値を創出するDX3.0へと進化することが期待される中、企業は今、何をすべきなのか論じる。

【講師略歴】

1990年早稲田大学大学院理工学研究科修了、同年株式会社野村総合研究所入社。一貫して情報通信関連分野における調査・コンサルティング業務に従事。専門は競争戦略・事業戦略・マーケティング戦略。現在、総務省情報通信審議会専門委員、DX時代における電波政策懇談会、NEDOポスト5G情報通信システム技術推進委員会等委員。



特別講演

SP-14

未踏天体を克服したマネジメント：小惑星探査機はやぶさ2

16:00～17:00

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 教授／はやぶさ2プロジェクトマネージャ

津田 雄一

小惑星探査機はやぶさ2は、人類未踏の小惑星リュウグウに到着し、4基の探査ロボットによる地表探査、2回の高精度着陸、世界初の人工クレーター作成および観測などを成し遂げた。そして2020年12月6日に無事地球に帰還した。帰還したカプセルの中からは、5.4グラムという多量のリュウグウのサンプルが確認され、今後の科学成果が期待される。宇宙探査プロジェクトの特徴は、挑戦的な

活動と大きな成果が期待される一方、マネジメント上は高い確実性が求められる。本講演では、文字通り人類未踏ゆえに不確定性の高いプロジェクトを成功に導くことができた実例として、はやぶさ2プロジェクトの顛末とマネジメント上の奮闘を紹介する。本講演は「はやぶさ2 最強ミッションの真実」(NHK出版)、「はやぶさ2の宇宙大航海記」(宝島社)に基づく講演である。

【講師略歴】

2003年JAXA宇宙科学研究所助教。2008-2009年ミシガン大学及びコロラド大学ボルダー校客員研究員。2015年JAXA宇宙科学研究所准教授。2020年同教授。その間[M-V]ロケット、小惑星探査機「はやぶさ」、ソーラーセイル宇宙船「イカロス」の開発・運用に従事。2015年より小惑星探査機「はやぶさ2」のプロジェクトマネージャ。

5 PROJECT MANAGEMENT SYMPOSIUM JAPAN 2021

Day1

9/2～30オンデマンド配信

PMシンポジウム2021

プロジェクトマネジメント実践

PM-11

住友生命のDXプロジェクトはなぜ成功したか

ファシリテーション型業務改革

ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社 CMO

榎巻 亮

2018年に完了した「営業タブレット更改プロジェクト」は、デジタルをベースに顧客に届ける価値と現場の働き方を変えた骨太のDXプロジェクトです。そんなDXを推進するための「人」「チーム形成」「進め方」など土台の部分にフォーカスし、何が通常と違ったのか、実際に何が変わったのかをお伝えすることで、DXプロジェクトに向き合うヒントを得ていただきます。

本講演では「デジタルに関する部分」はあまりお伝えしません。推進力のある組織を作る方法、DXプロジェクトとの向き合い方、プロジェクトを自律・自走させるファシリテーション手法に焦点を当ててお伝えいたします。

【講師略歴】

ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社 CMO/バイスプレジデント。1980年生まれ。ダイワハウス入社後08年にケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズに転職。以来、計画策定を行うプランニングフェーズを中心に、建築、金融、通信、運送など幅広い業種でプロジェクトに参画。

プロジェクトマネジメント実践

PM-12

ムアララボ地熱発電プロジェクト

インドネシア遠隔地域におけるプロジェクト遂行

富士電機株式会社 発電プラント事業本部 火力・地熱プラント技術部 プラント技術課 主任

服部 康之

インドネシア向けムアララボ地熱発電所プロジェクトの紹介。同プロジェクトはインドネシア、スマトラ島山中の遠隔地に地熱発電プラントを建設するプロジェクトであり、富士電機にとって初めての顧客(PT. Supreme Energy Muara Laboh)向け案件であった。富士電機はインドネシア向けに、これまででも多数の地熱発電プラントを建設してきたが、従来のプロジェクトと比較しても難易度の高

い案件であり、プロジェクトの進行にあたって様々な課題に直面した。本講演では同国・地域の地理的背景や、プロジェクト概要、課題解決に向けた施策等について紹介する。

【講師略歴】

2008年の入社以来、国内外の地熱発電プラント、地熱オーガニックランキンサイクルプラント、バイオマス火力発電プラントの機械・配管エンジニアリング業務に従事。ムアララボ地熱発電プロジェクトにおいてはアシスタントプロジェクトリーダーを務める。

プロジェクトマネジメント実践

PM-13

アジャイル開発の科学

DXを実現するための、日本のアジャイル開発の実践方法

株式会社トヨタシステムズ ファイナンス企画部 企画G

河路 裕司

アジャイル開発が日本に紹介され20年経つのに、日本ではなぜいまだに普及しないのか？いつまでも変わらないのは、そこに合理的で科学的な理由があるからだ。日本では世界で一番ハイコンテクストな国で、アジャイルが普及している国はいずれもローコンテクストな文化を持つ。

遺伝子工学の研究からは、日本人の持つセロトニン遺伝子はS型で「敏感で不安を嫌う」傾向が強いことが分かっている。逆に欧米は「リスクを苦にしない」I型が多い。日本人には不確実性が合わないのだ。本講演はアジャイル開発の不確実性を排除する改善方法を提案する。もちろん、適応型のアジャイル開発の本質はそのまま。

【講師略歴】

2003年にトヨタシステムズにキャリア入社。前職はメガバンクのシステム開発子会社。トヨタシステムズ入社後も、金融システム開発のプロジェクトマネージャを歴任。その後、組織PMO(プロジェクト・マネジメント・オフィス)のマネージャとして活動。現在、全社のアジャイル開発の推進メンバーとして活動中。

プロジェクトマネジメント実践

PM-14

現場から見てきたイノベーションを創出する5つの法則

イノベーションとハレーション

PMAJ PMマイスター (京大大学経営管理大学院 客員教授)

竹林 一

イノベーションと呼ばれるが、なかなかイノベーションは生まれない。今回、現場目線からイノベーションが創出されるための5つの法則について整理したので発表する。法則1:イノベーションの「軸」を設定する。法則2:コミュニケーションのない所にモチベーションなく、モチベーションのない所にイノベーションは生まれない。法則3:イノベーションを起こそうとするとコンフリクションが発生し、対応を間違えるとハ

レーションが起こる。法則4:クリエーションとオペレーションが融合した時にイノベーションが加速する。法則5:エフェクチュエーションとコーゼーションを繋ぐ翻訳機能が重要である。

【講師略歴】

「機械に出来ることは機械にまかせ、人間はより創造的な分野での活動を楽しむべきである」との理念に感動して立石電機(現オムロン)に入社。以後新規事業開発、オムロンソフトウェア代表取締役社長、ドコモ・ヘルスケア代表取締役社長等を経て現在同社インキュベーションセンタ長、および京大大学経営管理大学院客員教授。

プロジェクトマネジメント・スキル強化

PS-11

DXに向けたモダナイゼーションを成功に導く新たな品質保証体系

富士通株式会社 品質保証本部 部長代理

藤森 正晴

DXを加速するために、現行の基幹システムをモダナイゼーションして再構築する取り組みが各企業で行われている。しかし一方で、業務継続性の担保やスパゲッティ化した現行システム資産の移行など、難しい課題も多い。単純なコンバージョンではハードウェアの老朽化対応は一時的に凌げるが、本質的な解決にはならない。また安易にリビルドすると現行仕様のヌケモレや複雑なシステム移行作業を生んで、プロジェク

トが失敗することにつながりかねない。そのため、モダナイゼーションを成功に導く新たな品質保証体系が必要となっており、その概要と効果について講演する。

【講師略歴】

1986年4月、富士通株式会社にSEとして入社。金融機関・流通・メディアのお客様向けに基幹システム再構築プロジェクトのプロジェクトマネージャを歴任。現在は品質保証本部でソリューション・サービスの品質保証体系の策定を実施。

6

プロジェクトマネジメント・スキル強化

PS-12プロジェクトマネジメントの現場

株式会社デンソー デジタルイノベーション室／アジャイルモンスター

及部 敬雄 



みなさん、こんにちは！私はプロジェクトマネージャーではありませんが、ずっと現場の最前線でチームづくりをしてきました。私のチームは2019年にIT企業から現職の製造業の会社にチーム移籍をしました。業種が変わってもチーム中心の仕事のスタイルは変わっていません。プロジェクトマネジメントのドメインでは、たくさんの言葉や方法論が飛び交っています。それらはとても参考になり、私たちの仕事の進め方の

選択肢を増やしてくれます。ただし、知っているかどうかとそれを実際の現場で活かせるかどうかは違います。今回はとある実際のプロジェクトをテーマに、どうやってチームをつくっていたのかについてお話してみます。方法論としてではなく、プロジェクトの現場で私たちがどのようなことに注目をしてどのように考えてどのようにチームがつくられていったのか。プロジェクトマネジメントの現場からお届けします。

【講師略歴】エンジニアとして、様々なドメインのプロダクト開発・運用・新規事業立ち上げを経験。アジャイル開発との出会いをきっかけに、最強のチーム・組織をつくることを目標に日々奮闘している。そこで得た実践知をアジャイルコミュニティなどで発信し続けている。2019年にチームFA宣言をし、現職にチーム移籍を果たした。新しいチームのかたちを模索している。また、アジャイルコーチ（個人事業主）として様々なチームや組織の支援もしている。https://agile-monster.com/

プロジェクトマネジメント・スキル強化

PS-13PRINCE2概要紹介－組織論としてのPRINCE2の特徴と活用

PMAJ PM研究・研修部会

木下 雅治 



PRINCE2は英国政府が開発したプロジェクトマネジメント方法論である。欧州や国際連合をはじめとして世界中で活用されている。今回は組織論としてPRINCE2を取り上げ、その特徴や活用ポイントを紹介する。

- ・PRINCE2概要
- ・プロジェクトマネジメントチームの役割と責任

【講師略歴】PMAJ PM研究・研修部会 会員。SOMPO システムズ株式会社勤務。損害保険ジャパン、SOMPO システムズでシステム企画、運用、プロジェクト、業務改革推進業務などに従事。PRINCE2 Practitioner、ITIL Expert、PMI®認定PMP®、修士(システムエンジニアリング学)。

ヒューマンスキル

HS-11プロジェクトマネージャーとキャリアカウンセラーの共通点
異なる二つの職務経験から

富士通株式会社 グローバルソリューション部門 SI変革室

遠坂 岳雄 



プロジェクトマネージャーとキャリアカウンセラーは、一見するとまったく異なる職種のように見えるが、本質的に同質の職種と見ることもできる。講演者がキャリアカウンセラーへ職種シフトしたことの原点は、プロジェクトメンバーのモチベーション回復に関わった経験にある。メンバーの自律性を高め、チームのパフォーマンスを最大限に発揮するために必要な資質は、カウンセラーの仕事には欠かせないカウンセリング

マインド(相手を人間として尊重する姿勢)であり、「心理的安全」にも通じるものである。本講演では、両者の共通点について、現場での実際のエピソードも交えながら説明していく。

【講師略歴】1984年に富士通株式会社入社。システムエンジニアとして幅広く職務を経験したのち、1999年からメガバンクや地方銀行の大規模プロジェクトのプロジェクトマネージャーを務める。2015年にキャリアカウンセラーに職種変更し、社員のキャリアカウンセリングを行う傍ら、社内でもキャリア研修を立ち上げ、教材開発と講師を務める。

ヒューマンスキル

HS-12隠された脳の潜在能力を【瞬読】で引き出す
デジタル時代に必須の思考力を効率的に手に入れる

一般社団法人瞬読協会 代表理事

山中 恵美子 



デジタル時代には、いわゆる「成績がいい」頭のよさよりも、発想力、判断力、情報処理能力等の思考力が非常に重要視される。「瞬読」では、眼球トレーニングが主となる従来の速読とは異なり、右脳で情報をインプット、左脳でアウトプットするという独自のトレーニングを通して、驚くべき速度で本が読めるようになるだけでなく、これからの時代に必要な思考力を伸ばすことが出来る。さらに、読書や情報収集の時間を

短縮することが出来れば、新たな時間を生み出すこともできる。今回のセミナーでは、7,000人以上にそのメソッドを伝えてきた創始者が、今すぐ使える瞬読術をお伝えする。

【講師略歴】株式会社ワイイーエス代表取締役社長。兵庫県西宮市にて、学習塾・予備校を経営し、8年で全国30教室に。学習塾にて、学習効果を上げる方法の一環として、速読を取り入れる。これが後の「瞬読」となり、学習塾の生徒から、大人の方まで好評を博し、全国放送にも取り上げられる。著書に、「瞬読」「瞬読ドリル」「瞬読式勉強法」がある。

ヒューマンスキル

HS-13自己成長のためのセルフコンパッション
マインドフルネスに基づく最強の自己管理法

一般社団法人マインドフルリーダーシップインスティテュート 理事

木蔵 シャフェ 君子 



プロジェクトマネジメントの成功を支えるのは、セルフマネジメント、すなわち自己管理である。

自分に対して完璧を求め、負荷をかけすぎたり、義務感だけで自分を駆り立てようとした結果、実力が発揮できないどころか、燃え尽きそうになるか、それとも、客観的に自分の心身の状態を見極め、自己を成長させ前進していくか。

その違いをもたらすのが、マインドフルネスに基づくセルフコンパッションです。本講演では、単に優しいだけでない自己成長のためのセルフコンパッションを学び、より有効な自分への向き合い方、自己管理法を探っていきます。

【講師略歴】ボストン大学MBA。P&G、LVMHでブランドマネジメントを担当。2000年より渡米・独立。2013年一般社団法人マインドフルリーダーシップインスティテュート創立。マインドフルネスを日本のビジネスシーンに導入したパイオニアの一人として活動。書籍は、シリコンバレー式頭と心を整えるレッスン(講談社)、他、監訳も多数。

戦略及びビジネスマネジメント

BS-11日揮流 AWP の実装と EPC 業務の DX に向けたデジタル化

日揮グローバル株式会社 エネルギースリユーションズ EPC DX部 部長

小島 和之 



プラントエンジニアリング業は、石油プラント等の巨大建設プロジェクトを、多岐にわたる工程・技術要素と多国籍の関連企業を統合しつつ遂行する事業である。年々巨大化・複雑化・短納期化し続けるプラントEPCプロジェクトにおいて、成功裏にプロジェクトを完遂するためにはAdvanced Work Packaging (AWP)の導入は必須となりつつある。対象となる業務・データ・システムは複雑かつ大量であり、プロジェク

ト遂行業務のDigital Transformationを推進するためには、散在するデータを束ねて管理することがカギとなる。弊社における、EPC DXに向けた日揮流AWPとDXへの挑戦について説明する。

【講師略歴】プラントエンジニアリングにおける建設部門出身。建設業務担当として、その業務改善とIT化に関わったのち、全社の工程間のサイロ化・データ分断に起因する課題の解決および、最新の建設マネジメント技術であるAdvanced Work Packaging (AWP)の導入を手掛ける。2020年9月より現職にてEPC全体のデジタル化を推進。

戦略及びビジネスマネジメント

BS-12会社の成功細胞を育成し、経営危機を脱出せよ
ポストコロナ時代、個人、会社、社会を発展させる方法

経営コンサルタント／東工業株式会社 取締役

川勝 良招 



日本はコロナ危機前の30数年前から構造的危機に直面。多くの事業・技術分野で世界の潮流の蚊帳の外。国際競争力は30位。総合起業率は世界最低。ビジネス・イノベーションは殆ど不成功。10年以内に日本のGDPは第4位か、5位に。危機を救うモーズは企業人(社長と社員)。企業の危機脱出策は、「夢」を持ち、夢実現の為、汗と涙と血を流す事を厭わず、好んで流す企業人、「優れた発想」をする企業人、失敗を容認す

る社長、部下と共に成功の立証責任を負う社長等が、「優れた価値」を生む真のDXを基にビジネス・イノベーションを成功させ、企業を発展させる事だ。

【講師略歴】経営コンサルタント、日本と海外の各種企業顧問、中国政法大学客座教授等。前職：岐阜県理事(県三役)、新潟県参与、韓国ソウル特別市・諮問官、映像システム専務取締役、NTTデータ経営研究所顧問、新日鉄USJ(映画パーク)とセガJOYPOLISを開発。東大、新潟県立大、中央大、法政大、NY州立大の客員教授等。

戦略及びビジネスマネジメント

BS-13組織アジリティへの拡張の必然性
経営層リーダーシップ無しにDXの成功無し

PMAJ 組織アジリティSIG 主査 (富士通株式会社)

小原 由紀夫 



組織アジリティSIGは、DX推進に向け、①不連続への対応、②意思決定の高速化、③柔軟な組織力活用の3つの課題を設定した。これらに対して、①アジャイルマインドの企業文化への発展、②DXの理解の共通基盤の醸成、③DXへの組織構造変革の3つの対策案を設定した。これらを事例により検証する。これらを通じて、DX成功に、組織アジリティ(DX推進に必要な風土・組織への重要な

取り組み)によるタイムリーな変革への対応とアジャイル開発が必然であることと、経営層のリーダーシップが必須条件であり、プロジェクトマネージャーがDXをリードし組織の変革を支援すべきであることを示す。

【講師略歴】富士通シニアアジャイリストとして、企業へのアジャイル導入および組織アジリティ向上のため、経営層を含む組織への教育・コンサルティングに従事している。SAFe SPC、PMP®、ケイデンスマネジメント社認定講師。「アジャイル開発への道案内」、「ITサービスのためのアジャイル」PMAJ編を共著。

人材育成・働き方改革

HR-11ニューノーマルでの働き方改革[Work Life Shift]とジョブ型人事制度の展開
新たなイノベーションを生み出す組織へ、現場の声を反映した制度・組織変革

富士通株式会社 CHRO室長

森川 学 



緊急事態宣言により働き方の変革が迫られてから1年。富士通がいち早く取り組んだ改革[Work Life Shift]における多様な働き方の内容と、その効果・課題を紹介する。加えて、パーパスドリブンなDX企業となり、環境や社会、顧客のビジネスにポジティブなインパクトをもたらしていくために、必要な人材や組織カルチャー変革が求められている。これを実現するための手段として、富士通ではグループ会社含む管理職

15,000人に対して、ジョブ型人事制度の導入をスタートしているが、この人材マネジメント変革の取組みについて紹介する。

【講師略歴】2006年富士通株式会社に入社。2014年よりドイツ ミュンヘンに約4年間駐在。2018年より労政部シニアディレクターとして、一般社員人事制度の企画および労働組合のカウンターを担当。2020年4月以降、ジョブ型人事制度、および新しい働き方“Work Life Shift”の企画を担当。

人材育成・働き方改革

HR-12課題解決型プロマネについて考えてみませんか？
DX実践記に学ぶ変革マインドと実践力

物語りラボ ナレッジハンター

吉野 均 



変革をリードするプロジェクトマネージャー(プロマネ)には、経営課題や社会課題を解決するためのより高度なプロジェクトマネジメント力が必要であり、「失敗しないだけ」のプロマネは「課題解決型プロマネ」に生まれ変わる必要がある。なぜ、生まれ変わる必要があるのだろうか？当講演では、その背景を確認した上で、『課題解決型プロマネ』への生まれ変わり施策に関わる富士通事例、DX成功プロジェクトから変革マイン

ドと実践力を学ぶ『DX実践記』の取組みを紹介する。現役のプロマネやリーダーは、『DX実践記』の「課題解決型プロマネ」を手本として、生まれ変わりの第一歩を踏み出して頂ければと切望する。

【講師略歴】富士通株式会社で、金融機関などのITシステムの企画・開発・運用プロジェクトを様々な立場から経験。再雇用後に現場力・実践力に関わるナレッジ継承活動に取組み、PMノウハウ継承のユニークな仕組み「ものがたり継承法」を確立。在職時の経験を活かし、ノウハウ継承に関するセミナー講師業を2020年1月に開始し、現在に至る。

社会課題解決

SS-11 “プロシェアリング”という新しい働き方
持続可能な社会を目指すこれからの共創のあり方とは

株式会社サーキュレーション ソーシャルデベロップメント推進室 代表

信澤 みなみ



今まさに、世界と経済、人の価値観が大きく揺れ動き競争から共創、分断から分配、非環境再生的から環境再生的な経済のあり方へと社会を再構築する時を迎えている。大きく複雑な課題を解決していくには、自社だけでなく外部との連携が欠かせない。個人の経験、知見を循環させる「プロシェアリング」という新しい働き方と、企業間及び地域やセクターを超えた連携によって、社会課題解決を目指すプロジェクトの

共創とは？
本講演は、これからの生き方、働き方を知り、企業のあり方、社会を変えていくための「共創」に欠かせないPM力や具体的な事例までを紐解くセッションである。

【講師略歴】株式会社サーキュレーションの創業に参画後、2019年にSDGs推進やセクターを超えた共創による社会課題解決を目指しソーシャルデベロップメント推進室を設立。自社のサステナビリティ経営の推進をはじめ、ベンチャー企業から上場企業のSDGs／サステナビリティ推進におけるアドバイザーや自治体やソーシャルセクターとの共創プロジェクトなどを推進。

社会課題解決

SS-12 地域課題を自ら解決できる「人」と「場」の基盤づくり
産学連携・オープンイノベーションによる地域・社会課題の解決

塩尻市役所 官民連携推進課 課長補佐（兼）官民連携推進係長

山田 崇



第五次塩尻市総合計画では、30年後も選ばれる地域であり続けるために、「確かな暮らし、未来につなぐ田園都市」の創造を目指し、プロジェクト10「地域課題を自ら解決する「人」と「場」の基盤づくり」の立ち上げにおいて、新たな課題解決の仕組みの創造や共創による、課題解決の推進を重点施策と位置付けています。多様な主体が地域・社会課題をビジネス視点で解決につなげるオープンイノベーションを推進する官

民協働事業を展開してきました。「MICHIKARA－地方創生協働リーダーシッププログラム」「シビック・イノベーション拠点スナバ」「塩尻型テレワークモデル KADO」等、官民連携推進の実例を講演します。

【講師略歴】1975年、長野県塩尻市生まれ。1998年、塩尻市役所入庁。「地域に飛び出す公務員アワード2013」大賞受賞。2019年、『日本一おかしな公務員』（日本経済新聞出版社）を上梓。空き家プロジェクトnanoda代表、内閣府地域活性化伝道師、市役所をハックする！ファウンダー、信州大学 キャリア教育・サポートセンター 特任准教授。

社会課題解決

SS-13 経済産業省に新たな風と未来への種まきを
20～30代の若者の考えを政策に反映する挑戦

官民若手イノベーション論ELPIS 発起人

杉山 実優



未来をつくるイノベーション政策に、その担い手たる若者の考えが入っていないことを課題とし、企業や大学の若手と官僚の若手がともにディスカッションできるプラットフォームを設立(官民若手イノベーション論 ELPIS)した。若手が考える2050年の未来像を議論し、そのために必要な5つの価値観の変化を公表した。また若手の考えを政策検討に反映するため、正式な若手版審議会を経産省で初めて設置(産業構造審議

会 若手ワーキンググループ)し、当時の副大臣が「歴史的会合」と注目する会議となった。大組織である役所の中で、若手が議論する場を生み出したその軌跡と現時点での成果、その意義を報告する。

【講師略歴】2017年(株)リクルートキャリア入社。2019年経済産業省出向、科学技術イノベーション政策を担当。産学官の若手コミュニティ「官民若手イノベーション論 ELPIS」設立。経産省初めの若手版審議会「若手ワーキンググループ」事務局。カーボンニュートラルを議論する「グリーン成長若手ワーキンググループ」事務局。2021年(株)リクルート帰任。

社会課題解決

SS-14 おきなわ海ブドウ物語
産学官で創る海藻養殖

PMAJ 沖縄 PM研究部会（株式会社OCC 取締役）

屋比久 友秀



日本の老舗IT企業が抱えている課題に対して、産学官連携し、地域課題と企業課題を解決する事で新たな産業創出を目指す。題材としてはIoTとAIを活用した海ブドウの生長加速とそのビジネス性についての内容であるが、日本の各地で抱えている課題に対して同様なスキームで取り組みると考えられる。日本各地の特産品を「学の知」を活用し、「官の財」を使い、「産のアイデア」を応用する事で商品価値を高める。さ

らに海藻養殖の過程で必要となる二酸化炭素を資源として利用する事で脱炭素社会にも貢献する。

【講師略歴】1971年沖縄県生まれ。大学時代から大規模コンピュータ計算を専門とし、沖縄の老舗IT企業OCCに就職。OCCに在籍しつつ米国フェルミ研究所客員研究員、東京大学医科学研究所客員研究員を経て、OCCにて新規ビジネス部門を任せられ、海ブドウの事業を開始。

イノベーション

IN-11 DADCで取り組むアーキテクチャ具体例
自律移動ロボット・住民起点MaaS・スマート安全

独立行政法人情報処理推進機構 DADC／プログラムディレクター 南 政樹／プロジェクトリーダー 細川 速美、高橋 久美子



Society5.0実現に向けてDADC(デジタルアーキテクチャ・デザインセンター)が取り組んでいる3つの観点のアーキテクチャ設計につき、3人の講演者から紹介する。
自律移動ロボット：ドローンを例とした、サイバーフィジカルシステム(CPS)の信頼性・効率性確保のレイヤーで共通的に必要となる社会インフラのアーキテクチャの取組み(南)。

住民起点MaaS：地域の移動を例とした、モジュール化されたサービスが繋がるための相互運用性を高めるアーキテクチャの取組み(細川)。
スマート安全：プラント保安を例とした、多様な連携を安全安心な形で実現するためのガバナンスアーキテクチャの取組み(高橋)。

【講師略歴】南 政樹：慶應義塾大学SFC研究所ドローン社会共創コンソーシアム副代表。研究領域はIoT、自律・分散・協調型コンピューティング。／細川 速美：オムロン(株)において、新規事業推進、事業企画、商品事業マネジメントを担当。2020年6月より現職。／高橋 久美子：(株)三菱総合研究所にて、官公庁を対象とした産業保安分野の政策提言の支援、及び、民間企業を対象としたリスクマネジメント戦略立案の支援を担当。2020年5月より現職。

イノベーション

IN-12 ニューノーマル時代の旅を科学し、世界を変える挑戦
業界を超えた連携の先にある未来

ANAホールディングス株式会社 デジタル・デザイン・ラボ 旅と学びの協議会事務局

大下 真央



コロナウイルスがもたらすパラダイムシフトの中で、旅が本来持つ価値が再認識されるところです。これまでの教育においては、旅先で学習することが直観的に有効であるところと、修学旅行や社会科見学などが実施されていますが、旅の経験がどのよう

に人間としての成長や成熟につながるのかについては、科学的な根拠を持っては検証されてきませんでした。旅と学びの協議会では、業界を超えた40団体以上の参画

団体の皆様と、各分野の専門家の知見とデータに基づき、旅を通じた学びと幸せが人間の成長におよぼす効果を科学的に検証することに挑戦しています。これからの旅と学びの協議会の目指す世界についてご紹介いたします。

【講師略歴】2014年ANAグループに入社後、羽田空港国際線グランドスタッフとして4年従事し、ANA AVATAR プロジェクトへ参画後、2018年ANAHD新規事業部門へ異動。経済産業省Next Innovator 始動2018選抜後、中高校生向け教育旅行「イノ旅」や、旅の効用を科学的に検証する「旅と学びの協議会」の立ち上げを行う。地域・学校・教育事業者・有識者など様々なセクターの方と連携したPMに従事している。

イノベーション

IN-13 ググらせない会社が創る非接触型スマートシティ
まだ見ぬ世界の実現に向けて市場を掘り起こせ

株式会社アクアビッツパイラルズ 代表取締役CEO

萩原 智啓



チームの行動指針はたった一つだけ。「スマートプレートのファンであれ」。

当初はプロダクトアウト型のチームとして製品開発に邁進していた。しかし、「モノと情報がかざして繋がる」ことの価値の大きさに気付いた時から、チームは社会問題解決型へと転換していった。

その経緯とともに、コロナ禍におけるソリューションフィットから見た「非接触型スマートシティ」実現への足がかりと組織課題、解決に向けた取り組みを紹介する。

*スマートプレートとは、当社のプロダクト名です。

【講師略歴】1992年リクルート入社、1995年起業。インターネット黎明期から様々な領域のデジタル化に関わり、2009年に株式会社アクアビッツパイラルズを設立。ICチップを様々なモノに埋め込んで情報・サービス・決済とつなぐSaaS型プラットフォームを提供して「モノと情報が直接つながる社会」の実現に取り組む、世界初のググらせない®エバンジェリスト。

PMシンポジウム豆知識

2004年からその年のテーマを決めて開催しているんだよ！
テーマをご紹介します！



- 2004 競争力強化のためのプロジェクトマネジメント ～イノベーションと継続的发展～
- 2005 変革と進化のためのプロジェクトマネジメント ～強い個と強い組織～
- 2006 明日を創るプロジェクトマネジメント ～次世代への進化とチャレンジ～
- 2007 新たな創造と成長のためのプロジェクトマネジメント ～PM力を鍛えるか～
- 2008 プロジェクトマネジメントが拓く明日への変革 ～総合力と人間力を磨く～
- 2009 時代に克つ ～知識から知恵へのプロジェクトマネジメント～
- 2010 変化への挑戦 ～プロジェクトの先を見据えよ～
- 2011 発想そして実行 ～協創のプロジェクトマネジメント～
- 2012 創ろう！新たな未来
- 2013 新たな価値創造、そして成長
- 2014 想像が明日を拓く ～進化するPM～
- 2015 明るい未来を創るプロジェクトマネジメント
- 2016 変化に適応し、変化を創り出す
- 2017 次世代への共創 ～イノベーションを支えるプロジェクトマネジメント～
- 2018 デジタル変革に挑む
- 2019 競争優位のビジネス創出 ～未来社会に向けて今何をすべきか～
- 2020 ビジネスのデジタル化 ～持続可能な社会を支えるプロジェクトマネジメント～
- 2021 企業を変える、社会を変える、生き方を変える
～DX時代を牽引するプロジェクトマネジメント～

特別講演SP-21

SDGs、脱炭素が引き起こす価値の大転換

11:20～12:20

社会課題解決、倫理ではなく経営課題として

立教大学 21世紀社会デザイン研究科 特任教授／不二製油グループ本社 CEO補佐

河川 真理子

2015年に社会を大きく転換させる2つの仕組みが整った。脱炭素社会を目指すパリ協定と、環境・社会・経済の3面から社会の持続可能性を高める枠組み、SDGsである。2020年秋に菅首相は脱炭素社会を目指す宣言、ビジネスの脱炭素化、カーボンプライシングの導入などの政策を打ち出している。SDGsは大手企業の経営層に定着し、長期経営計画策定、人事評価などに組み込む企業も増えてきた。投融资の際に環境や社会課題を考慮するESG投融资はデファクトに

りつつある。環境や社会的影響を考えてモノを買うエシカル消費も若い世代中心に共感を広げている。その背景には深刻化する気候変動などの環境問題、コロナで明らかになる世界規模の格差や人権侵害の問題などがある。それが経済成長、効率性と、自己利益最大化とを優先させてきた経営者、投資家、生活者の価値観を大きく転換させ始めている。本講演では、このような価値の転換をふまえ、職業人かつ生活者としていかに持続可能な社会に貢献できるかを考察する。

【講師略歴】
立教大学特任教授、不二製油グループ本社CEO補佐。サステナビリティの諸課題について、企業、金融、生活者の立場からの調査研究、提言活動を行う。アナリスト協会検定会員、国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、日本サステナブル投資フォーラム理事、WWFジャパン理事、環境省中央環境審議会臨時委員など。



特別講演SP-22

技術と社会を変革するシステムイノベーション

13:20～14:20

一般社団法人システムイノベーションセンター(SIC) 副センター長

木村 英紀

イノベーションの議論はこれまでデバイスやコンポーネント、素材、工法などの変革に限定されてきた。しかし、実際にはこれらと並んで、新しいシステムの構築と運用が技術を変革する大きな駆動力となっており、この「システムのイノベーション」を視野に入れなければ技術進歩の本当の姿を把握することは出来ない。最近では製造業のサービス化に伴い、付加価値が要素からシステムに急速に移動しつつあること、さらにシステムの変革は技術だけではなく経営や社

会の変革にも結び付いていることから、システムイノベーションの役割はますます大きくなっている。本講演では「システムイノベーション」の歴史やその役割、それを実現するための手法、そこで必要とされる知識と経営的な基盤について述べる。システムイノベーションにおけるプロジェクトマネージメントの役割についても述べたい。システムイノベーションが日本においては未熟であることが国際競争力の弱さに通じていることも示す。

【講師略歴】
1970年東大工学系大学院博士課程修了、同年大阪大学基礎工学部助手、1986年大阪大学工学部教授、1995年東京大学工学系大学院教授、2002年理化学研究所生物制御研究室長、2009年理研トヨタ連携センターセンター長、2011年科学技術振興機構研究開発戦略センターシステム科学ユニット長、2015年早稲田大学招聘研究教授、2020年より現職。



特別講演SP-23

アーキテクチャ設計力強化に向けた日本政府・IPAの取組について

14:40～15:40

DADC設立の背景と今後の展望

独立行政法人情報処理推進機構(IPA) 社会基盤センターアーキテクチャ設計部(DADC) 副部長

河野 孝史

Society5.0の社会は、人の生活や行動、企業活動をバーチャルな世界と現実の世界を融合させたCPS(サイバーフィジカルシステム)として変革していくことで実現される。人間中心の社会であるSociety 5.0の実現に向け、生活や産業の基盤を形成する複雑なシステムの信頼性、安全性を確保し、ビジネス・エコシステム、法制度・ガバナンスの在り方も含む社会システム・産業構造全体の見取り図にアーキテクチャを活用することが重要である。このため政府は、2020年5月にアーキテクチャ設計を議論するハ

ブとして、デジタルアーキテクチャ・デザインセンター(DADC)を独立行政法人IPA内に設立した。DADCは、産業界や行政等の多数の関係者の意見を集約し、多様な人の知の統合により、グローバルに通用する、産業のアーキテクチャをデザインするための透明性を持った中立的な場である。本講演では、DADCの狙いや現在取り組んでいるアーキテクチャ設計、さらには今後の展望について紹介する。

【講師略歴】
2007年経済産業省入省。資源エネルギー庁での法制度・予算等、気候変動問題の国際交渉等の業務を経て、2014年より米国留学。2016年より情報経済課においてデータ利活用に係る“Connected Industries”等各種政策の企画立案・とりまとめ等の業務を経て、2019年7月よりIPA出向。



特別講演SP-24

学びのパラダイムシフト

16:00～17:00

概念知から身体知へ

曹洞宗僧侶

藤田 一照

私が大学院を中退して禅の修行道場に入ったのは、単に学びの場所を変えたというだけのことでなく、学者から行者へという存在のあり方の転換であり、概念知から身体知へという学びのパラダイムシフトであった。この個人的転換の経緯を題材にして、アカデミックな概念知の学びのどこにどのような問題があり、禅の伝統に代表される修行を通しての身体知の学びがそれをどのように克服する可能性があるかを論じてみたい。講演者はマネジメントに関しては

まったくの門外漢であるが、臨床の知でもある身体知の獲得はマネジメントの現場においても必要な課題であると考え。現場での経験からオーガニックに学び、過去の答を現在に適用しようとするのではなく、その都度フレッシュに「現在の」最適解を探求することができるためには、それにふさわしい哲学とその実現のための修練が要求される。この講演では、セルフ・マネジメントを一つの切り口として、マネジャーとしての自己修練についても述べてみたい。

【講師略歴】
1954年愛媛県生まれ。東大大学院博士課程を中途退学し、曹洞宗僧侶となる。1987年より米国マサチューセッツ州西部にある禅堂に住持として渡米。2005年に帰国。2010年から2018年まで、サンフランシスコにある曹洞宗国際センター所長。神奈川県葉山町にて慣例に捉われない独自の坐禅会を主宰している。



プロジェクトマネジメント実践

PM-21

エナジートランジション技術の社会実装に向けて
技術戦略の為にP2M

東洋エンジニアリング株式会社 エンジニアリング技術統括本部 本部長代行(兼) 次世代技術開拓部 部長

富永 賢一

東洋エンジニアリングはマテリアリティ(重要経営課題)のひとつである「環境調和型社会を目指す」への取り組みとして、エナジートランジション技術の開拓をミッションとする「次世代技術開拓部」を新設した。我々の取り組みが起こすイノベーションを、

燃料アンモニアとバイオジェット燃料のプロジェクト事例と戦略ロードマップを、P2Mプログラムマネジメントの視点よりご紹介する。

【講師略歴】九州大学工学部化学機械工学科卒業。1989年東洋エンジニアリング入社。プロセスエンジニアとして多数のエチレンプラントのプロジェクトに従事。2020年より現職。エナジートランジション分野の技術、ビジネス開拓を担当。



プロジェクトマネジメント実践

PM-22

国際宇宙探査時代の国際協力とマネジメント

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 国際宇宙探査センター 事業推進室長

永井 直樹

ISS計画での米国駐在員やアルテミス計画のJAXAマネジメントメンバとして、米国NASAマネジメントと様々な課題を交渉すると共に、NASAの国際協働業務をまじかで体験し、文化的背景や技術水準が異なるメンバーとチームを組んで計画を詰め、思考錯誤もある中、宇宙機関の関係者と連携してプログラムを進めてきた。本講演では、今後の国際宇宙探査において新たなプレイヤーも台頭する中における課

題となる、パートナー(新興国や企業等)をいかに取りまとめるか、米国NASAのパートナーへの細かな配慮、リスクやコミュニケーションマネジメントなどを紹介、更に日本の宇宙探査の取り組みについてプログラムマネジメントの観点から紹介する。

【講師略歴】JAXAにて、国際宇宙ステーションきぼう実験モジュールの開発に従事、米国ヒューストン駐在員を経て、きぼう運用/利用のミッション計画担当、ISS副プロジェクトマネージャを経験(合計20年)、現在国際宇宙探査計画の事業推進に従事し、米国等とのプログラム協定締結、探査プロジェクトの立上げを行っている。



プロジェクトマネジメント実践

PM-23

PMRが語る 環境変化に対応するプログラムマネジメント
困った時にはプログラムマネジメント!

PMAJ Advanced PMR Club

枝窪 肇/吉野 良成/坂井 剛太郎

プロジェクトマネジメントでは「計画に従って実行し成果を得る」ことが求められるが、計画の前提条件が大きく変わった場合にはどのように対応すれば良いのか? 本講演では、Advanced PMR Clubで相互啓発し、プログラムマネジメントの普及促進を図ることを目的に活動しているPMRが、考え実践した2件の「環境変化に対応するプログラムマネジメントの活用事例」を紹介する。

1. PMシンポジウムのウェビナー化とリスクマネジメント
2. 家族旅行での活用事例
併せて「プログラムマネジメント実践事例集(エッセンス版)」の最新版を配布する。ぜひ皆様にもプログラムマネジメントに取り組んでいただきたい。

【講師略歴】枝窪 肇:電機メーカー勤務32年、システムエンジニアリング～PM～品質保証に従事。/吉野 良成:Sl'er勤務37年、業務システム系開発PM～組織管理・運営に従事、技術士(経営工学・総監)。/坂井 剛太郎:建設会社勤務39年、国内外の建設プロジェクト、本社業務改革プロジェクト、海外法人運営等に従事。



プロジェクトマネジメント実践

PM-24

DXにおけるプログラムマネジメントとは
DXに取り組んでいる企業をプログラムマネジメント視点で分析する

PMAJ PMマイスター(株式会社社形成コンサルティング 代表取締役社長)

濱 久人

デジタルトランスフォーメーション(DX)は、データやプロセスのデジタル化を活用し、企業のビジネスそのものの変革を目指している。このような取り組みは、2000年頃に初めて構想されたプログラム&プロジェクトマネジメント(P2M)が、目指していたものと軌を一にするものであると考えられる。20年を経て、P2Mが目指したものが、ITテクノロジーの進展や社会環境の変化によって、より実現すべきもしくは実現可能なものとなったとも言える。本講演では、DXに成功していると言われる企業のビジネス活動が、P2Mにおけるプログラムマネジメントの視点(戦略型)から見て、どのように行われているかを考察する。これにより、今後のDX推進にプログラムマネジメントの適用が有効であることを、事例に基づいて提言するものである。

【講師略歴】建設コンサルタント(福山コンサルタント)や製造業(パナソニック)、IT企業(NTTデータユニバーシティ)にて、システム調査・企画・開発、人材育成などを経て、現在は、(株)彩成コンサルティングを設立し、プログラム&プロジェクトマネジメントの研修を中心に企業や大学・大学院で活動中。



プロジェクトマネジメント・スキル強化

PS-21

アジャイル開発による生き生きとしたマネジメント

デロイトーマツコンサルティング合同会社 CBO 執行役員

kyon_mm

システム開発におけるマネジメントを学ぶなかで、アジャイル開発の実践を通じて様々な広がりを見つけた。マネジメントという言葉にはある種の規律を感じるが、アジャイル開発の実践ではそれだけではなく、小さいチームによる躍動感のある仕事を体感した。この生き生きとしたマネジメントを通じて私の所属する47機関はチーム移籍をした。本セッションでは躍動感と規律の調和によるマネジメントについて紹介する。

【講師略歴】2015年頃から47機関というチームでアジャイル開発を本格的に導入し、いくつかのプラクティスを発見してきた。2021年現在では15minSprint、フラクタルスプリントを中心にチーム開発を続けている。また新規事業や大規模開発などでアジャイルコーチ、アーキテクチャ設計支援、テスト自動化支援などに携わっている。2017年からは文科省産学連携プロジェクトenPiTにて筑波大学にて非常勤講師をつとめ、アジャイル開発のコーチングをしている。



プロジェクトマネジメント・スキル強化

PS-22

品質重視のアジャイル開発とは
ウォーターフォールモデル開発との比較から

株式会社イデソン 代表取締役／公立はこだて未来大学 客員教授

菅田 直美



アジャイル開発に挑戦したものの、品質確保の方法がわからず苦戦している方や、顧客から品質の説明を求められて困っている方は多い。アジャイル開発は、従来のソフトウェア開発に比べて開発アプローチがかなり異なる。本講演では、アジャイル開発の特徴と誤解、適用しやすいソフトウェア領域などについて、ウォーターフォールモデル開発と比較しながら解説する。さらに、アジャイル開発の「短期間」という条件を乗り越えて、品質重視のアジャイル開発を実現するための方法を説明する。

【講師略歴】ソフトウェア品質の専門家として、30年以上に渡って大手電機会社で活躍。ウォーターフォールモデル開発およびアジャイル開発に精通し、現場での豊富な経験を保有。2020年、㈱イデソン設立。ソフトウェア品質のコンサルティングを中心に活動。単なる知識にとどまらず、現場の事情を考慮した実践的な品質保証が特徴である。

プロジェクトマネジメント・スキル強化

PS-23

DX推進の鍵を握るアジャイルPMO
大手Sierにおける部門横断組織のアジャイル変革の旅

TIS株式会社 PMOビジネス推進部 張 嵐／品質マネジメント革新部 マネージャー 利根 章



コロナ禍という未曾有の危機下に日本企業は急激な変革を迫られている。しかし組織変革は一朝一夕にはできない。戦略と実行の整合性確保、硬直化した組織の横断化推進、現場のモチベーションと自己組織化の向上、これら様々な課題を並行で実施しなければいけない。変革の枠組みとして大規模アジャイルフレームワークの導入モデルは有効であり、この推進力を担うのがアジャイルPMOである。本講演ではSierの弊社が着手した、SAFe(Scaled Agile for Enterprise)に基づく変革推進におけるアジャイルPMOの役割、現場のリアルな状況と課題を紹介する。変革に着手する組織への一助となれば幸いである。

【講師略歴】張 嵐：メーカー／エネルギー系企業を経て、オフショア運営、アジャイル開発のコンサルティングを経験。現在はアジャイルPMOサービスの推進を担う。SAFe 認定コンサルタント(SPC)、PMP。
利根 章：金融系大規模システム開発のPMO、社内のマネジメント標準／PM育成に従事。Certified SAFe Agilist、PMP。

プロジェクトマネジメント・スキル強化

PS-24

DX時代のプロジェクトマネジメント
デジタル変革の時代にプロジェクトマネジャーは何处へ向かうべきか

PMAJ PM研究・研修部会 (株式会社JSOL ソーシャルトランスフォーメーション事業本部 シニアコンサルタント)

大泉 洋一



AI、IoT など新しいテクノロジーを活用してこれまでにない価値を創出する、デジタル・トランスフォーメーション(DX)の進展が広く社会に変革をもたらし始めている。DXの進展による変革の時代において、プロジェクトマネジャーはどのように役立っていくのだろうか。DX時代においては、プロジェクトの対象となる活動自体がこれまでとは大きく変わってくる。プロジェクトの対象となる活動自体の変化にあわせて、そのマネジメントの枠組みも当然ながら変わっていかねばならない。本講演では、DX時代に対応していくためにPMの枠組みをどのように変えていくべきか、論ずる。

【講師略歴】PMAJ® PM研究・研修部会・講師。PMI® 認定PMP®。㈱日本総合研究所(当時)に入社後、国の医療費分析等に従事。その後、厚生労働省の外郭団体である政策研究機関に研究員として出向。帰任後(後に会社分割により現社)ITコンサルタントとして活動し、2019年よりDXコンサルタントとしてDXビジネスの創出に従事。

ヒューマンスキル

HS-21

機能体から共同体としての組織へ
「幸せに働く」を実現するコミュニケーションとは

株式会社Pallet 代表取締役

羽山 暁子



1910年代、大量生産を実現するために「機能体」としての組織マネジメントが整備されてから110余年。2021年、曖昧さ、複雑さが加速するVUCA時代。コロナ禍によって一気に進んだテレワーク、働き方の多様化。「個」が重視される時代は、個人を活かすために「共同体」としての組織作り、孤立させない、エンパワーメントするコミュニケーションが非常に重要である。多くの企業の組織開発に関わってきた知見から、共同体としてのしなやかで、人も組織も幸せに向かう組織作りを、事例も合わせて、コミュニケーションの観点から紐解く。

【講師略歴】1979年横浜生まれ ICU卒。インテリジェンスにて法人営業を経て人事部へ異動(現パーソルキャリア)。㈱BrainPad人事マネージャーとしてマザーズ上場、東証一部上場をサポート。2015年 東京から仙台に1ターンして現職。「はたらくことがあたり前に幸せな社会を創る」をテーマに、中小企業の組織開発を支援。

ヒューマンスキル

HS-22

ニューノーマル時代のリーダーシップ
求められる6つの力

EQパートナーズ株式会社 代表取締役社長

安部 哲也



ここでは、ニューノーマル環境とは 1) デジタル 2) ダイバーシティ 3) グローバル 4) ソーシャル 5) リモート環境と定義する。このようなニューノーマル環境におけるリーダーシップに求められるマインド・スキルはどのようなものであろうか? 従来から求められてきた力と、新たにニューノーマル時代に求められる6つの力 IQ、EQ、AQ、GQ、DQ、MQについて、解説する。

【講師略歴】パナソニックにて、SE、営業・マーケティング、香港駐在員などを経験。企業のリーダーシップ開発を行うEQパートナーズ株式会社を設立し、代表取締役社長に就任。立教大学ビジネススクール客員教授、聖心女子大学 非常勤講師を兼務。著書は「ワールドクラス・リーダーシップ」(同友館)、「課長の心得」(総合法令)など。

ヒューマンスキル

HS-23

セカンド+キャリア×ローカル
人生100年時代のキャリア再構築とは?

株式会社グロッシー 代表取締役

北村 貴



ある日突然、私たちに突き付けられたキーワード「人生100年時代」。あなたは100年を生きる覚悟、心構えはできているだろうか? また有意義に過ごすための準備は何から始めるのか? 定年後の雇用延長は1つの選択肢でしかなく、政府は1万人規模の首都圏企業人材を地域に派遣する政策を提示。個々人にキャリアの再設計が迫られている。

2020年度、2021年度と2年連続で、内閣府「関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築に関する調査・分析業務」での採択を受けた「ふるさとみつけ塾」。を事例に、ロールモデルの行動変容をベースにキャリアを地域で活かす3つのポイントについて話す。

【講師略歴】1967年北海道生まれ。1997年日本で2番目となるITマーケティング会社を起業。北海道にUターンし2007年㈱グロッシー創業。料理家・シェフ350人とメーカーの商品開発・PRを行う一方、地方企業と多様なビジネスを仕掛ける。2020年Dailogue for Everyone㈱を設立。セカンドキャリア人材の教育と地方インターンシップ事業をスタート。

戦略及びビジネスマネジメント

BS-21

あなたならどうする? DXの実現に向けた「最初の一步」
“従来型”SIエンジニアの奮闘記

富士通株式会社 SSLユニット 第二システム事業本部 第三システム部 部長代理

衛藤 智広



顧客やエンジニアを問わず、世の中の多くの人々がデジタルトランスフォーメーション(DX)という言葉を知り、現実的な取り組みとして、何をDXビジネスの入り口にすれば良いか「最初の一步」の踏み出し方に悩みを持っているエンジニアは多いのではないだろうか。本セッションでは、長年にわたり日本国内における従来型SIビジネス(受託開発)に携わってきたエンジニアが、海外のスタートアップ企業が開発したIoT プラットフォームを活用し、新規ソリューションビジネスの創出に取り組む中で得た知見や、DXに対する考え方、これからのDX人材のあり方について共有する。

【講師略歴】2003年の入社以降、官公庁向け大規模SIを担当し、アプリケーション基盤の設計開発を担当後、プロジェクトマネージャとして、インフラにおける提案から設計構築、運用に従事。2019年よりソリューションビジネス、スポーツ関連ビジネスに携わりつつ、新規事業創出に向けた活動を実践中。

戦略及びビジネスマネジメント

BS-22

DXの荒波を乗り越える!
DX時代に「デザイン思考」は何故必要なのか?

株式会社ピーエム・アライメント ビジネスコンサルティング部 取締役

中谷 英雄



デジタル革命の時代に企業が生き残るためには、デジタル技術だけでは十分ではありません。市場の変化に迅速に追従できるスピードも必要です。そして顧客と長期的な関係を構築することが求められます。今、機能や品質で商品・サービスの差別化を行っていた時代から、顧客の感情や好みに訴える「顧客経験価値」提供の時代に移りつつあります。さらに企業はビジネス環境の変化に対応し新ビジネス創出のため、DX(デジタル変革)への対応が必須です。本講演では、人間中心アプローチをベースとした「デザイン思考」が、DX時代に何故必要不可欠なのか事例を交えて言及します。

【講師略歴】1990年三井住友信託銀行入社、2006年より株式会社ピーエム・アライメントで主に金融IT大規模プロジェクトのPMO支援に従事。その後大学でデザイン思考を学び、社会課題の解決、金融商品の開発でデザイン思考を活用。現在、50日/年程度 デザイン思考の研修講師に従事、デザイン思考プロジェクトの相談に關与。

人材育成・働き方改革

HR-21

デジタル時代のセキュリティ人材育成と当社の取り組み事例紹介

株式会社富士通エフサス 第一サービスビジネス本部 セキュリティサービス室 シニア・プロ

河原林 広



高度なサイバー攻撃が一般的になりつつあり、当社のお客様の中にも被害を受けているケースが発生している。それに対し、当社はお客様の安心安全を確保するため、高度セキュリティ人材を育成し、IIS/運用サービスの提供につなげている。本講演では、当社の高度セキュリティ人材育成の取り組みと、IIS/運用サービスの実践について紹介しつつ、今後世の中に求められるであろうセキュリティニーズと対応の展望を考察する。

【講師略歴】2005年入社、ネットワークのエンジニア経験を積み、2009年からセキュリティ分野の業務に携わる。現在は社内でもセキュリティサービスの提供と富士通グループのセキュリティ人材育成制度を推進する傍ら、情報処理安全確保支援士の理事補佐を行うなど外部活動も行っている。CEH、CISSP取得。

人材育成・働き方改革

HR-22

富士通におけるDX人材育成
成長したいという気持ちを引き出し支援する

富士通株式会社 Employee Success本部 Engagement & Growth統括部 デジタルカレッジ長

半田 智子



DX化が叫ばれる中、DX化を実現するための人材育成が急務となっている。果たしてDXを担う人材とはどのような人材か?どのように育成すればよいのか? 富士通では、DX人材の育成を考える際、人材開発部門が人材像を定義し、それに向けて個人が必要なスキルを磨くという従来型のアプローチから、社会やお客様に最高の体験を提供するために、社員自身が最良のエクスペリエンスを重ねるというアプローチに転換した。「教える」のではなく「成長したいという気持ちを支援する」。この考え方のもと、富士通は社内DX及び顧客DXを推進する人材の育成施策を推進している。講演では背景や具体的な施策などについてご紹介する。

【講師略歴】富士通㈱入社後、システムエンジニア、コンサルティング業務などを経た後、同社DX人材の先駆けであるデジタルイノベーター育成事業に従事、情報処理学会誌への論文発表も行う。現在は全社人材開発部門でDX人材の育成を担うデジタルカレッジにおいて、育成プログラムを始めとする各種施策の企画と推進を行う。

人材育成・働き方改革

HR-23

人材危機時代の外国人材の活用の実践
優秀な外国人材の活用ノウハウ

株式会社サンウェル 代表取締役社長

ユガナンダン・スブラマニヤン



少子高齢化が進む日本で、優秀な人材を確保して、企業の競争力を保つのはどうしたら良いだろうか？その一つの解決策は、優秀な外国人材を雇うことである。国境や国籍に縛られずに、自由に才能を活かして活躍する外国人材をいかに活用するかが、今後の自社の発展にも大きく関わってくるであろう。その実践について、自らがエンジニアとしてインドから日本に来て、日本企業で働き、その後外国人エンジニア

の派遣会社を設立して10年、自らが外国人材として働いた経験と外国人材の派遣会社としての10年の実績を踏まえ、外国人材の活用の方法とノウハウを語る。

【講師略歴】インドのマドラス大学で機械工学を専攻。2001年に来日し、機械設計に従事。2004年から大手自動車メーカーでプロジェクトマネジャーとして100名以上のオフショア請け負い業務を管理。2010年に株式会社サンウェルを設立。年間300名以上の高度外国人エンジニアを日本の企業へ派遣。現在、国内5拠点と3社の海外子会社を運営。

社会課題解決

SS-21

“SPERA水素®”を活用した国際水素供給網の構築

千代田化工建設株式会社 水素事業部 渉外・広報・業務セクション セクションリーダー

鍛冶 尚弘



脱炭素社会の鍵は、水素エネルギーの活用と認識されており、2020年10月の日本政府の2050年カーボンニュートラルの宣言を境に、その導入に向けた動きが国内でも加速している。我々は、常温常圧で安定的なメチルシクロヘキサン(MCH)を用いた液体有機水素キャリア(LOHC)に注目し、2011年にMCH脱水素触媒の開発に成功した。その後、2020年には、次世代水素エネルギーチェーン技術研究組合(AHEAD)

の組合員の一社として、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の助成事業である世界初の国際間水素サプライチェーンの実証運転を成功裡に完了した。本講演では、自社環境技術であるSPERAシステム、国際間実証事業の成果、水素事業展開取り組みを紹介する。

【講師略歴】1993年、千代田化工建設に入社。自社技術の排煙脱硫装置の設計、製作、試運転、海外ライセンス案件に従事。2010年、CO₂物理吸収設備のEPC業務を経て、2013年に水素チェーン事業推進ユニットに配属。水素事業組成の一環として取り組んだ国際間水素サプライチェーン実証事業の実務遂行責任者を務め、現在も水素事業構築に携わっている。

社会課題解決

SS-22

ソフトバンク SDGs 戦略と推進

ソフトバンク株式会社 SDGs推進室

日下部 奈々



ソフトバンク株式会社は、「SDGs」の課題解決を重要な経営課題と捉え、国際社会が追求する社会課題の解決に貢献することにより、企業価値の向上と持続的な社会

の実現に取り組んでいる。社長直下組織としてSDGs推進室が設置されてから、組織横断で戦略構築と推進を行った約1年間の歩みを共有する。

【講師略歴】[SDGs社内浸透(株式会社サーキュレーション)]「市職員向けSDGs勉強会(大阪府池田市)」[持続可能な組織を作る企業と個の繋ぎ方(Unipos株式会社)]「組織におけるキャリア開発/ダイバーシティ推進(東京大学 教養学部)」[キャリア自立(公益社団法人 企業情報化協会)]等。

社会課題解決

SS-23

国境をこえた障がい者支援
ラオス・日本の障がい作業所が力を合わせる製品作り

NPO法人Support for Woman's Happiness 代表理事

石原 ゆり奈



2017年、東南アジア ラオスに障がい作業所を開所し、障がい当事者の職業訓練と自立支援を行っている。ラオスの民族女性が織った生地を使う製品作りで独自ブランドを構築し展開。現在はラオスの障がい作業所と日本の障がい作業所が協力して製品を作り、地域のお土産品として納品する連携も行っている。双方の得意な分野を伸ばす指導に力を入れ、障がい作業所が作っているから、可哀想だから買うのではなく、

可愛い・良い製品として選ばれるよう日々奮闘中。障がいを理由にせずにその人らしさを活かすプロジェクト作りを目指している。

【講師略歴】2011年NPO法人国際学校建設支援協会設立。ラオス・ネパールの教育現場で、女性と障がい者が教育の機会にめぐまれていない事に気づき、2017年にSupport for Woman's Happiness設立。30名の障がい当事者にミシンなどを指導。2021年、農園を開所。第28回人間力大賞文部科学大臣奨励賞、ソーシャルプロダクツ賞2020、ジャパンSDGsアワード2020外務大臣賞受賞。

社会課題解決

SS-24

「脱炭素」社会づくりが日本の明日を決める

株式会社環境文明研究所 代表取締役・所長

加藤 三郎



今までにない豪雨・洪水、熱波や干魃などの異常気象は、人々の生活と経済活動を混乱に陥れ、社会の安定と秩序を脅かしかねない。また、その頻度や被害が激化して毎年発生すれば、個人や企業、自治体や政府にとって、その負担は耐え難くなる。このような事態に対して、国際社会は2015年にパリ協定を採択し、日本は2020年に「2050年までにCO₂等の排出を実質ゼロとする脱炭素社会を創る」と宣言した。有限な地球

環境の中で、世界の人口や経済規模が膨張していけば、脱炭素に向けて社会を創り直すしか他に道はないからだ。この道は楽しみも少ない窮屈な生き方と思われがちだが、そんなことはない。生産と消費のあり方を見直し、簡素、省エネ、リサイクル、利他などを旨とすれば、今までとは違う心豊かで価値ある日本の明日が出現する筈だ。

【講師略歴】1966年東京大学工学系大学院卒、厚生省入省。環境庁にて公害・環境行政を担当。地球環境部初代部長として地球温暖化防止行動計画の策定、地球サミット参画などを主導。退官後に環境文明研究所を設立し、認定NPO法人 環境文明21を主宰。現在、同法人顧問。新著「危機の向こうの希望」(プレジデント社、2020年)のほか、著作多数。

イノベーション

IN-21

スタートアップのためのマインドセット
企業も社会も行動を変えれば意識が変わる。

株式会社カピオン 代表取締役

曾我 弘



私は企業も社会も変わるべきであると言い続け、自分自身がそれを行動で実証してきた。大企業を定年退職後、誰もが次に挑戦ができる。私はシリコンバレーで起業をしたが、これは私だけが話ではなく、他人事ではなく、行動すると意識し、決断することさえできれば、誰しも実行することが可能なのだ。その後もスタートアップはいかにすればイノベーションが起こせるのかを実体験から研究を進めてきた。そして

たどり着いたのがマインドセットの方法である。意識を変えるには勇気が必要である。議論を重ねるだけでなく行動する人材を育成する日々の取り組みを紹介する。

【講師略歴】工学博士(東京大学)。新日鉄退社後、1991年～2010年までシリコンバレーに移住。1995年エクシングに売却後、1996年にSpruce Technologies, Inc.を設立。DVDオーサリングシステムを開発・商品化し、最終的に同社をAppleへ売却。その後大学発ベンチャー支援(東大)やメンター活動と並行し、慶応大学リーディング大学院で起業講座を担当(2012～現在)。高校生を対象とした起業力教育 DECA JAPANを主宰する。

イノベーション

IN-22

5G時代のシステムインテグレーション

FCNT株式会社 プリンシパルアーキテクト

井上 栄



5G時代は、ビジネスのビジョンによりテクノロジーを牽引していく動きが活発になる。ネットワークとコンピューティングの融合が加速、これらをインテグレーションする技術が求められる。

②そのために、各種機器、クラウドサービス、AI等を適切に組み合わせることである。これらを実現するシステムとして、サイバーフィジカルシステム(CPS)が注目されている。

5G活用で大切なことは、本講演では、5G技術の概要と、CPSの概要とそれを支える技術要素について簡単に説明する。このシステムを構築するためのマネジメントについても言及する。

①収集したデータを蓄積・分析して活用すること

【講師略歴】1985年より株式会社東芝にて分散処理コンピュータ、及び携帯電話等のシステム開発に従事。2010年より富士通株式会社、2016年よりFCNT株式会社にてAndroidスマートフォンの開発に従事。一貫して製品開発に携わる。JSSEC 副会長・理事、MCPCセキュリティ委員会 委員長、NEDOユーザアドバイザー委員会 委員。

イノベーション

IN-23

デザイン思考・変革のための人間中心の方法論
誰もが再現できるイノベーションのレシピ

株式会社Ringfish 代表取締役

中澤 雄一郎



いまは「正解のない時代」と言われている。このような状況下では、解決策(ソリューション)を生み出すだけでなく、解決すべき問題(Problem)を発見する必要がある。デザイン思考は人間中心のアプローチで、従来見落としていた重要な問題を発見し、その解決策をアジャイルに模索しながら生み出していく再現可能な方法論である。プロセスや理論、事例のレクチャーにより、体系的にデザイン思考の概要や有用性、人間中心の

心のマインドセットを理解できるようになる。短時間でイノベーション(前例のない取り組み)への対応方法を学習することが可能。

【講師略歴】早稲田大学法学部卒。ヤフー、損保ジャパン、ベンチャー企業のCEOを経て現職。既存業務と同じ感覚で新規事業に取組み、失敗する事例を数多く経験し、イノベーションの方法論の普及をビジョンとする。企画・プロデュースした事業は日経優秀製品・サービス賞「最優秀賞」、日本サービス大賞「優秀賞」など複数受賞。

昨年参加者のひとこと

Web開催のため遠隔地から参加できました。参加出来て良かったです。



(40代 サービス)

昨年参加者のひとこと

SDGsをテーマとした内容が非常に濃いものであり講演者も魅力的でした。



(40代 その他)

昨年参加者のひとこと

複数の講演を録画配信で自由に見ることが出来て有意義でした。



(60代 製造)

昨年参加者のひとこと

接続に不安がありましたが、上手く繋がりWeb受講出来ました。来年も参加します。



(40代 その他)

昨年参加者のひとこと

D Xを再確認したり人とのつながりの重要性を再確認しました。



(30代 エンジ)

昨年参加者のひとこと

録画配信で興味があった講演は何度も見返しました。参加して良かったです。



(50代 IT)

ピープルサート・インターナショナル

EX-1

デジタル化とベストプラクティス基盤知識
個人の能力をエンパワメントするプラクティス



日本代表

まつばやしともふみ

VUCA時代の組織のアジリティとガバナンスがコロナ禍により試されました。基盤知識を活用して業務の組み替えやパートナーとの連携が迅速に実施できた会社もあれば、既存の業務の再構築を行えばいいの動きが止まってしまった会社もあるようです。個人の能力とパッションは桁外れに高い日本人ですが、組織の中にはいるとその組織の成果は海外より迅速性と生産性が低いことが多い様に感じる一方、個人の能力はそれほどでもない欧米人でも組織の中に入ると素晴らしい成果を発揮する海外の企業が多くあります。ベストプラクティス研修を通じて、国内外のトランスフォーメーションニーズを支援します。

【講師略歴】20年間の外国銀行勤務の大半を香港、シンガポール、ロンドン、ニューヨークという海外勤務。国内帰任後、リクルート社とトムソンロイター合併会社 CEO、英国ピアソン国内法人 CEO を経て、TYLF マネジメント 設立。海外の FinTech 会社や MediTech 会社などのスタートアップ企業の役員を歴任。現在、ピープルサートの日本代表。

TIS千代田システムズ株式会社

EX-3

プロジェクトの変更と予算管理を考える
海外製コストエンジニアリングツールに見る変更データ管理の手法



デジタルソリューション1部

金子 健一

業界・規模・施工国を問わず、プロジェクトは当初の目論見通りには進まないことがほとんどです。しかしながら、多くのプロジェクトでは発注側リスクが小さいとされる一括請負(ランパサム)契約が広く採用されているのが実態ではないでしょうか。契約主義のグローバルプロジェクトにおいても[変更契約をきちんと獲得し、コスト見通しの健全化を図る]ことは重要なテーマです。今回は海外製コストエンジニアリングツール(ARES社 PRISM G2)の変更管理の機能を紐解きながら、海外ではどのようなデータを蓄積し活用しようとしているのかを見ていきたいと思います。

【講師略歴】海外 EPC プロジェクトでの出来高請求・変更求償に向け、IT 面からお手伝いできるよう日々精進しています。AACE 日本支部会員、PMP、Primavera P6、ARES PRISM G2、Aconex、Acumen Fuse。

グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社

EX-5

DXを実現するためのプロジェクトデザイン思考
デザイン思考によるプロジェクトプラン



代表取締役

池 大

多様化、不確実な時代に対応するために、日本の企業はDXを推し進める必要に迫られています。そして、企業のDXへの変革には、複数のアジャイルプロジェクトを社内です立ち上げる必要があります。それらのプロジェクトの進捗を的確にとらえるには、モデルベースのプロジェクトデザイン思考が必要です。そしてアジャイルプロジェクトに対応するためのプロジェクトのチーム力強化が求められています。今回、弊社の「プロジェクトデザイン」方法論と、それを実現するプロジェクトシミュレータの「TeamPort」ソフトウェアの紹介と、「プロジェクトチーム健康診断サービス」を紹介します。

【講師略歴】グローバルプロジェクトデザイン・ジャパン株式会社代表取締役。現職の前は、アクセンチュアにてシステム運用方法論およびツールの日本国内の責任者を務め、企業のシステム運用の変革プロジェクトに多数参加する。リスクマネジメント協会会員 Certified Risk Manager。

日本オラクル株式会社

EX-7

オラクル建設&エンジニアリングのプロジェクト
マネジメントソリューションのご紹介



建設&エンジニアリンググローバル事業本部 シニアセールスマネージャー

藤井 克佳

建設・エンジニアリング業界では、プロジェクトマネジメントの効率化を含め生産性の向上が急務となっている。オラクル建設&エンジニアリングでは、グローバルで広くご利用いただいている Primavera 始め、プロジェクトマネジメントの効率化のためのソリューションを提供している。昨今は、個別ソリューションにおけるデータを統合した上で、得られた情報を活用して次のプロジェクトに向けたインサイトを獲得することの重要性が増しているが、それらに関連したオラクルが取り組むプロジェクトマネジメント情報の一元化、およびデータ活用についての新しいソリューションを紹介する。

【講師略歴】20年以上にわたり、プラント業界、エンジニアリング業界の顧客を中心に、プロジェクトマネジメントソリューションの提案活動に従事。2012年より現在のオラクル建設&エンジニアリング事業本部にて、Primavera や Aconex といったソリューションを主に製造・エンジニアリング業界の顧客に向けて提案を行っている。

株式会社日立ドキュメントソリューションズ

EX-9

“一気通貫型プロジェクトマネジメント”の未来像ビジネスの考察
顧客との協創活動による顧客最適化PMモデルの創出



EPCプロジェクト本部/シニアプロジェクトマネージャ

河崎 宜史

人材の多様化、働き方改革、COVID-19対応など大きく変化する社会やビジネス環境下では、より高度なマネジメント力が求められる。これに対応するためDX化などの改革が急速に進められているが、単に最先端のシステムやツールの導入だけではマネジメント力の高度化は実現しない。そこに働く“人”の意識やコンピテンシーの醸成、人・組織が抱える本質的課題の抽出、プロジェクト管理のあるべき姿創出、業務プロセスやシステムの設計・構築、そして実運用段階の支援までの一気通貫型の管理方法を、顧客との協創により創出する次世代型のビジネスを事例を交えながら考察する。

【講師略歴】1992年日立製作所入社。発電プラント、建設機械、鉄道、産業機器、家電製品など幅広い分野でエスグラフィー調査等を用いた人間中心設計で業務/システム改善を実施。現在、日立ドキュメントソリューションズにてEPCプロジェクトを中心に人間中心設計を適用したプロジェクトマネジメントの支援活動に取り組む。

株式会社ソフトロード

EX-2

「コロナ禍に勝つDXに向けたモダナイゼーション」
革新的なAIロボットによるリフォームとは？



営業部 取締役

新妻 秀樹

日本企業は、[KAIZEN]の手法で独自の強みを武器として、高品質な商品、心の行き届いたサービスを実現してきた。この[KAIZEN]を強みに生かし、現在まで培ったシステムを更新し、そのエッセンスをDX実現のための新たな技術基盤につなげることが、極めて重要となる。そこで今、既存システムを蘇らせる[ITモダナイゼーション](システムリフォーム)が、多くの企業の間で注目されている。過去20年で550プロジェクト以上の更新実績と経験、また革新的な開発手法である最新のAIロボットを採用した更新、DB正規化、業務動的可視化等についてもご紹介する。

【講師略歴】2002年有限会社ソフトロード(現株式会社ソフトロード)入社。以来約20年間にわたり日本企業のシステム更新サービスの展開に従事。Gartner、日経、ITメディアなどのイベントでの講演経験多数。

株式会社アジャイルウェア

EX-4

プロジェクトのフローを加速せよ
TOC流の課題発見と対応のコツ



近年急激に変化が早まり、予測不可能な状況になっている、すなわちVUCAの時代と言われています。このような時代を生き抜くためには、アジャイルに開発を進めることが重要ですが、日々の変化に対応するためにマネジメント層は奔走せざるをえず、冷静にOODAループを回すことが困難になっています。そんな中、完全テレワークの企業で、ボトルネックに着目し、TOC流の手法で状況の整理、フロー改善に取り組んだ軌跡をお話します。

【講師略歴】外資系IT大手にて生産管理系システム開発のPM・アーキテクトとして従事し、その後、事業会社にて全社横断的な業務改革PMを経験。PM、ファシリテーションの国際資格を持ち、そのスキルをプロセスマネジメント改善、組織開発・リーダー育成にも活用している。<保有資格>TOC/CCPM スペシャリスト、TOC®国際認定マスターファシリテーター。

プラネット株式会社

EX-6

プロジェクトとレジリエンスと笑いとユーモア
QCDを超えた人間的要素を、面白おかしく



コンサルタント

中嶋 秀隆

プロジェクトのQCDは厳しい。それを乗り切れることは大きな喜びであり、自信につながる。だが、準備せずに立ち向かうのと、準備をして臨むのでは、大きく違う。ここでは、QCDの準備ではなく、プロジェクト・メンバーに不可欠な「心」の準備に焦点をあてる。トピックは「レジリエンス(難局を乗り切る力)」と「笑いとユーモア」。具体的には、「レジリエンスの5本柱」(例、問題をさばく、自己を保つ、災いを福となす)と、「笑いとユーモアの7つの習慣」(例、「遊び心」を発揮する、ジョークや冗談を多発する、自分を笑い飛ばす、ストレスの中に笑いとユーモアを見つける)。面白おかしく語ります。

【講師略歴】プロジェクトマネジメントの研修・コンサルティング分野の専任のひとり。京セラやインテルでの国際プロジェクトの経験を基盤に独立。日本語のPM本の第1号「PMプロジェクトマネジメント」(1998年)を出版以来、あらゆる分野でPMの研修・コンサルを展開。「PM標準10のステップ」の公開セミナー(2日)は280回を超える。

パナソニック ソリューションテクノロジー株式会社

EX-8

パナソニック経営理念伝道師が語る「経営理念とマネジメント」
同時上映：PM資格にチャレンジ！



パナソニック 経営理念伝道師

佐藤 昌夫

パナソニックの「経営理念」では、事業の目的、使命をしっかりと捉えて共有することが大切、と伝えていますが。会社を動かすための経営理念をプロジェクトを動かすことに応用できないか、ご参加の皆さんと考える時間をご用意できればと思います。どの会社の経営理念も表現の仕方は違うけれども言いたいことは同じです。この時間が皆様のこれからのPM活動にお役立ちできれば幸いです。※昨年ご好評いただいた内容を中心にお話する予定です。<同時上映>「PM資格にチャレンジ」では、日本プロジェクトマネジメント協会のプロジェクトマネジメント資格(PMC,PMS)と、おすすめの学習方法についてご紹介いたします。

【講師略歴】パナソニックソリューションテクノロジーでは、ご好評をいただいております「P2M資格試験対策講座シリーズ」「経営理念研修」の他にも幅広く人材育成メニューをご用意しております。▼人材育成ソリューション:https://www.panasonic.com/jp/business/its/hrd.htm

実行委員のひとこと

初めてのWeb配信。喜んでいただけて安心しました！

コロナ禍に負けず開催させる強い気持ちで開催しよう。

未曾有な世の中をシンポで明るくするぞ！

準備会議もすべてWeb会議。初めてずくでした。

(企画委員)

(運営委員)

(実行委員&当日ボランティア)

ライブ配信には、Zoomを採用

■事前に視聴環境の確認をお願いします。

ネット接続ができる環境で、PC・スマホ・タブレットなどから視聴できます。

視聴にはZoomアプリが必要ですので、お申込みの前に(Zoom提供のテストページ)にて接続確認テストをしてください。

当日、お客様の通信サービスや利用機器、ブラウザなどの影響により、聴講ができない場合、PMAJでも対応ができかねる場合がございますのでご了承ください。

ライブ講演を会場で直接受講したい方

■Day1、Day2それぞれお申込みの先着300名様まで会場で受講いただけます。

充分なコロナ対策を施したうえで実施の予定ですが、開催当時の状況によっては、無観客講演に変更することがあります。

ライブ配信・録画配信を問わず、配信内容の録画・録音、ならびに正規申込みされた方以外の視聴は禁止とします。

■講演動画の著作権は、講演者およびPMAJに帰属しており、この動画の一部分または全部を著作権者に無許可で使用することは、著作権法に反することとなります。

最新情報はPMAJの公式WEBページにて随時更新します。

■詳細情報につきましては、右記URLからご確認ください。



<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2021/index.html>

協賛・パートナー企業

PeopleCert® All talents, certified.

SoftRoad

Sciforma

TIS千代田システムズ TIS INTEC Group

Agileware

GLOBAL PROJECT DESIGN

planet Training and Consulting

ORACLE Construction and Engineering

Panasonic

株式会社 日立ドキュメントソリューションズ

EXIN

TAKENAKA

UNISYS

TOYO ENGINEERING

CHIYODA CORPORATION

HITACHI Inspire the Next

JFE JFE エンジニアリング 株式会社

JGC 日揮グループ JGC GROUP

FUJITSU

TIS TIS INTEC Group

YOKOGAWA

Innovation Management

日鉄エンジニアリング NIPPON STEEL ENGINEERING

pm Alignment

参加申込み要領

PM^{シンポジウム}2021

お申込み方法

WEBページにてお申込みを受付けます。『PMシンポジウム2021』のご案内ページをご参照ください。
<https://www.pmaj.or.jp/sympo/2021/index.html>



参加申込み期限・お支払い方法

	申込み期限	支払い期限
早期割引申込み	7月31日(土)	8月5日(木)
通常申込み	8月24日(火)	8月26日(木)

お申込み受付後、電子メールにて参加費等を記載したお申込み受付確認メールをお送りいたします。
 また、お振込み時には、参加者名及び電子メール(受付確認メール)に記載のお申込み番号を必ずご記入ください。

※クレジットカードご利用の場合の手続きは、WEBページに記載しています。
 ※企業名でお振込みの場合は、事前に参加者名及びお申込み番号を事務局までお知らせください。
 ※請求書払いをご希望の場合は、余裕をもってお申込み願います。
 ※恐れ入りますが振込み手数料はご負担ください。
 ※お申込み後のキャンセル手続きは、WEBページに記載しています。

口座名：三菱UFJ銀行 本店 普通 0737079
 名義人：特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 (トクヒ)ニホンプロジェクトマネジメントキョウカイ

お問い合わせ

日本プロジェクトマネジメント協会・事務局

E-mail : admi-sympo-cs@pmaj.or.jp TEL.03-6234-0551 FAX.03-6234-0553

参加費

注) 参加申込み時にPMAJに入会申込みの場合は会員扱いとなります。入会ご希望の方は、下記URLからお手続きください。
<https://www.pmaj.or.jp/kyoukai/nyuukai.html> (消費税込)

	早期割引(7/31(土))			通常申込(8/1(日)以降)		
	Day1 9月2日(木)	Day2 9月3日(金)	Day1,Day2 通し	Day1 9月2日(木)	Day2 9月3日(金)	Day1,Day2 通し
PMAJ 個人正会員	12,000円	12,000円	23,300円	14,000円	14,000円	26,000円
PMAJ法人正会員の職員	14,500円	14,500円	28,200円	19,000円	19,000円	33,000円
PMC、PMS、PMR有資格者	17,000円	17,000円	33,300円	20,000円	20,000円	38,000円
ENAA賛助会員の職員/ 後援・協賛団体の職員、 PMI®会員、ITC資格者	23,300円	23,300円	42,600円	25,000円	25,000円	45,500円
一般参加者	23,800円	23,800円	46,000円	25,500円	25,500円	48,000円
学 生	無 料 学生を本分とする方に限ります(社会人学生は対象となりません)。また、証明書等は発行いたしません。					

Day1 ——— 【内容】基調講演+特別講演：9月2日ライブ配信、9月13日～9月30日オンデマンド配信
 カテゴリー講演：9月2日～9月30日オンデマンド配信

Day2 ——— 【内容】基調講演+特別講演：9月3日ライブ配信、9月13日～9月30日オンデマンド配信
 カテゴリー講演：9月3日～9月30日オンデマンド配信



PMAJ

特定非営利活動法人日本プロジェクトマネジメント協会
 Project Management Association of Japan (PMAJ)

日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)は、P2Mの資格試験や講習会、PMAJ会員のための定例の勉強会、PM研修、機関誌(PMAJジャーナル)の発行等を通じて実践的PMの普及活動を行っています。
 このPMシンポジウムも会員によるPM実践の場として、多くのボランティアメンバーを交え企画運営されています。